

3. 学 会 お よ び 誌 上 発 表 抄 録

1. 学会発表

(1) 水素化物発生-無炎原子吸光法によるセレンの定量

加藤賢二

第29回日本水環境学会

(1995年、広島市)

公共用水域および工場排水中のセレンの分析方法である連続式水素化物発生原子吸光法について最適分析条件、妨害物質の影響、前処理条件の検討を行った。その結果、カリウム、ナトリウムは海水中の濃度レベルでも影響しないが、銅は大きく妨害する。また、JIS法では灰化時に硫酸を使用しているが、セレンが揮散するので過塩素酸を使用することにより良好な結果が得られた。

(2) 三方湖の汚濁の現状と水質改善対策

石本健治、村田義公

稲森悠平(国立環境研究所)

第10回全国環境・公害研究所交流シンポジウム

(1995年、つくば市)

福井県を代表する天然湖沼の三方五湖について、湖の地理特性、水理特性および近年の水質状況を紹介し、富栄養化が著しい三方湖に対する「湖沼水質保全総合対策」についても紹介した。

さらに、平成5年度に行った動物プランクトンの調査結果(平成5年度年報で発表済み)を報告した。

2. 所内研究発表会

第23回環境センター・衛生研究所との合同の研究発表会

1. 日時 平成7年2月6日(月)

9:00~16:00

2. 場所 福井県環境センター会議室

No.	発表演題	発表者
1	都市中小河川における汚濁解析調査	主任研究員 坪川 博之
2	固相抽出による水中のPCB分析法の検討	" 高田 敏夫
3	アオコのプランクトン消長について	" 宇都宮高栄
4	P&T-GC/MSによる揮発性有機化合物の測定について	" 坊 栄二
5	スギなどの樹木葉中成分の季節変動について	" 坪内 彰
6	トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン使用工場の環境調査	" 植山 洋一
7	光化学オキシダント高濃度発生事例について	" 落井 勲
8	リモートセンシングによる環境解析の一例	研究員 吉川 昌範
9	世界湖沼会議に参加して	次 長 松山 幸弘